

第 131 回日商簿記 3 級 第 1 問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形	売 掛 金
有 価 証 券	立 替 金	土 地	支 払 手 形
買 掛 金	前 受 金	商 品 券	借 入 金
所 得 税 預 り 金	仮 受 金	引 出 金	売 上
有 価 証 券 売 却 益	仕 入	発 送 費	租 税 公 課
支 払 保 険 料	支 払 地 代	雑 費	有 価 証 券 売 却 損
支 払 利 息			

1. 保有していた海山商事株式会社の株式 200 株（取得価格：@ ¥ 1,000）を全株 @ ¥ 1,100 で売却し、売却代金は当座預金口座に振り込まれた。
2. 資材置き場として使用する目的で土地を賃借し、当月分の賃借料 ¥ 80,000 を現金で支払った。
3. 取引銀行から短期資金 ¥ 300,000 を借り入れていたが、本日、支払期日が到来したため元利合計を当座預金から返済した。なお、借入れの条件は利率年 4% で、借入期間は当期中の 3 か月であった。
4. 先月の従業員給料から差し引いた所得税の源泉徴収額 ¥ 30,000 を、納付書とともに現金で納付した。
5. 得意先山川商事株式会社より注文のあった商品 ¥ 300,000（原価 ¥ 240,000）を発送し、代金のうち ¥ 100,000 は同社より注文を受けた際に受け取っていた前金と相殺し、残額は掛けとした。なお、先方負担の送料 ¥ 5,000 は運送業者に現金で支払った（送料は掛け代金に含めずに処理すること）。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	当座預金	220,000	有価証券	200,000
			有価証券売却益	20,000
2	支払地代	80,000	現金	80,000
3	借入金	300,000	当座預金	303,000
	支払利息		3,000	
4	所得税預り金	30,000	現金	30,000
5	前受金	100,000	売上	300,000
	売掛金	200,000		
	立替金	5,000	現金	5,000

・解説

1. 有価証券の売却に関する問題です。

帳簿価額と売却価額との差額を売却損益で処理しましょう。

- ・帳簿価額＝200株×@1,000円＝200,000円
- ・売却価額＝200株×@1,100円＝220,000円
- ・貸借差額＝220,000円－200,000円＝**20,000円**（帳簿価額＜売却価額→売却益）

有価証券の売却に関する問題は、第102回の間5や第110回の間1、第116回の間5、第118回の間1、第123回の間4、第126回の間4、第142回の間4、第147回の間5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 固定資産の賃借に関する問題ですが、賃借料を支払地代勘定で処理するだけです。土地を購入したわけではないので、土地勘定を使わないように気をつけましょう。

固定資産の賃借に関する問題は、第140回の間3でも出題されているのであわせてご確認ください。どちらも非常に簡単な問題です。

3. 借入金の返済に関する問題です。

問題文に「元利合計を当座預金から返済した」とありますが、これは「元本と利息の合計額を当座預金から返済した」という意味なので、まずは利息の金額を月割りで計算しましょう。

$$300,000 \text{ 円} \times 4\% \times 3 \text{ か月} / 12 \text{ か月} = 3,000 \text{ 円}$$

借入金の返済に関する問題は、第140回の間5や第148回の間5でも出題されているのであわせてご確認ください。

4. 所得税の源泉徴収に関する問題です。

本問のように「すでに切った仕訳を前提とする問題」は、一度仕訳を書いて考えてみると分かりやすいです。

☆参考・給料支払時の仕訳（すでに切った仕訳）

（借）給料 30,000 / （貸）所得税預り金 30,000

★解答・預かっていた所得税を納付するさいの仕訳

（借）所得税預り金 30,000 / （貸）現金 30,000

所得税の源泉徴収に関する問題は、第100回の間3や第101回の間3、第102回の間4、第106回の間5、第109回の間2、第117回の間4、第121回の間2、第128回の間4、第130回の間3、第140回の間4、第142回の間2、第143回の間5、第145回の間5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 売上取引・前受金・立替金に関する問題です。

この問題は【前受金に関する仕訳】【売掛金に関する仕訳】【立替金に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【前受金に関する仕訳】

問題文に「代金のうち ¥ 100,000 は同社より注文を受けたさいに受け取っていた前金と相殺し」とあるので、前金受取時に計上した前受金を相殺する仕訳をします。

☆【既に切られた仕訳】前金受取時の仕訳

（借）現金など 100,000 / （貸）前受金 100,000

★前受金を相殺する仕訳…①

（借）前受金 100,000 / （貸）売上 100,000

なお、仮受金と前受金についてはきちんと区別してください。

・仮受金…なんのためのお金か分からないまま（とりあえず仮に）受け取った場合に計上する勘定

・前受金…なんのためのお金か分かっている（取引の前に）受け取った場合に計上する勘定

【売掛金に関する仕訳】

残額の 200,000 円については売掛金で処理するだけなので特に問題ないと思います。

★売掛金に関する仕訳…②

（借）売掛金 200,000 / （貸）売上 200,000

【立替金に関する仕訳】

先方負担の送料（発送費）は立替金勘定または売掛金勘定で処理しますが、本問は問題文に「先方負担の送料 ¥ 5,000 は運送業者に現金で支払った（送料は掛け代金に含めずに処理すること）」とあるので、立替金勘定で処理します。

★送料に関する仕訳…③

（借）立替金 5,000 / （貸）現金 5,000

なお、本問では問われていませんが、発送費が当店負担の場合は、立替金勘定でなく発送費勘定や支払運賃勘定、発送運賃勘定等で処理します。

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。